

ふるさと熊野

文化財探訪

享保九年 庄屋が大宮八幡宮（榊山神社）に奉納した二基の石燈籠の中のその一基は、神社社務所前の築庭に移築され無事に残っています。

伝説の虚実

佐田虫伝説は、熊野の伝説の中で最もよく人々に知られています。墓は、城之堀（中村博和氏）の前庭に古くから佐大夫の墓として伝えられ有りますが墓石は、数基の五輪塔を組み合わせたものの様に思われます。

昭和十五年十二月伝説をもとに出来庭の楨ヶ迫に佐大夫神社が建立されたが、道路拡張工事のため現在は、大歳神社前に転遷しています。佐大夫伝説ゆかりの物として町内には、他に首切塚（出来庭）首洗い井戸（城之堀）があります。また、宮の首の地名、由来をもつ二又杉（中溝区）などが残っています。

又、佐大夫の首を刎ねた伝説の庄屋の記録が榊山神社に次の様に記されています。

享保九甲辰九月 石燈籠二ツ願主

宗像新右衛門